



2010 US Training Course for Research and Presentation in Engineering and Science University of California, Davis

理工系大学院生のための

海外研究発表研修コース 工学英語Ⅱ(2単位) への振替可能

研修コースの 教育目標

- 英語での研究発表能力(プレゼンテーション・ライティング)を向上
- 研究活動に必要な英語でのコミュニケーション能力を向上
- 米国の理工系大学院における研究環境を知る
- 自己の英語コミュニケーション能力を客観的に知り、英語学習への動機付けを高める
- ホームステイを通してアメリカの社会・文化を知る

研修期間

出発日：2010年8月18日
帰国日：9月16日

参加対象

理工系学部4年生、
理工系大学院生(博士前期・後期課程)
*TOEICスコア500点以上が望ましい

募集人数

35名程度(最少催行人数 20名)
*但し1クラスは15名程度の少人数

説明会開催日程

2月 19日(金)【時間】16:30-18:00 【場所】工学研究科 U2-213
3月 8日(月)【時間】16:30-18:00 【場所】工学研究科 U2-213
3月 24日(水)【時間】16:30-18:00 【場所】工学研究科 U2-213
4月 12日(月)【時間】16:30-18:00 【場所】工学研究科 U2-213
4月 14日(水)【時間】16:30-18:00 【場所】工学研究科 U2-213
4月 16日(金)【時間】12:10-13:00 【場所】基礎工学研究科 留学生相談室
4月 20日(火)【時間】16:30-18:00 【場所】工学研究科 U2-213

<上記日程以外にも、工学研究科留学生相談部(GSEコモンウエスト低層棟1F)で随時説明を行っています>

申込受付期間

4月1日【木】

▶5月6日【木】

先着順!!

下記のオンライン申し込みサイトから登録

<http://www.gcn-osaka.jp/q/form.do?qcode=q159>

問い合わせ

工学研究科留学生相談部 (GSEコモンウエスト低層棟1F)

電話 06-6879-8972 (内線 8972/4122) / E-mail: us-program@fsao.eng.osaka-u.ac.jp

運営組織

工学研究科国際交流室・基礎工学研究科国際交流委員会・サンフランシスコ教育研究センター



プログラム 内容

- ベテランの英語指導者と理工系ティーチングアシスタントの
コラボレーションによる理工系学生のための専門的指導
- 自己の研究について、プレゼンテーション集中トレーニング
- UC Davisの研究者による特別レクチャーと質疑応答
- 研究室訪問や地元企業へのフィールドトリップ
- UC Davis大学院生のカンパセーションパートナーとの異文化交流
- アメリカ人家庭にホームステイしながら、アメリカの日常生活を体験
- サンフランシスコ・シリコンバレーの企業、大学を訪問



カリフォルニア大学 デービス校について

UC Davisは、サンフランシスコからバスで2時間、カリフォルニア州の州都サクラメント市の郊外、デービス市に位置しています。

約6万人が暮らす小さな街デービスは、その人口の約半数が大学関係者といわれる学園都市です。環境配慮の街としても名高く、アメリカで人口あたりの自転車の台数が最も多い都市の1つとして知られています。

アカデミックな面では、全米トップクラスとされる環境科学やバイオテクノロジーなどの分野に加え、工学、人類学、社会科学、芸術などの分野にも高い評価があり、中でも工学部はUniversity of Californiaシステムの中で最も多くのプログラムを提供しています。5,000エーカー(22.3km²)の広大で緑豊かなキャンパスでは、およそ100カ国の留学生や研究者が学んでいます。



研修HP http://english.fsao.eng.osaka-u.ac.jp/summer_prog/usprog2010.html

研修費用 プログラム費・ホームステイ費・サンフランシスコ研修費 \$3,200程度

渡航費用、VISA申請費用、海外旅行傷害保険、その他個人的支出が別途必要になります。

※費用は概算であり変更になることがあります。

「理工系大学院生のための海外研究発表研修コース」参加者の声



最大の「成果」は英語に対する抵抗が減ったことと、「経験」です。普段とは違った環境で生活することで、自分を見つめ直すとともにサバイバル精神を鍛えることができました。



英語を話すことによって広がる世界観を経験し、英語は単なる勉強の1つではなく、様々な国の人とコミュニケーションをとることのできる面白いツールだと気づきました。



スタンフォードやパークレーなど多くの米国の大学を訪れることができ、普段自分たちがいる日本の大学や研究環境がどのようなものであったかを改めて知ることができました。



研修参加を通して、自分自身の意識は確実に変わった。自分の人生を作るのは自分であり、世界を視野に入れたキャリアを自分自身で築いていきたいと強く感じている。